

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104980		
法人名	有限会社 かりゆし		
事業所名	グループホーム 高松(Aユニット)		
所在地	岡山市北区高松原古才720-3		
自己評価作成日	令和2年3月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jigyousoCd=3370104980-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和2年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

☐ 健康管理 ☐ リハビリ ☐ レクリエーション ☐ 事故防止
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の永年培ってきた経験から、人の問題が一番大事だという事を痛感しているからこそ、職員の人づくりをテーマとして、利用者に対してのケアを深めようとしている事が素晴らしい。その永年培った事を、若い施設長が、棋士が先読みをして勝負にする如く、冷静に淡々と熱く、今風に取り入れられるものに変化させようと、徐々に新しい施設の完成を目指して行こうとしている。スタッフに自主的な行動をさせた後に、今、この時代に、また、今、この利用者に「本当に大丈夫かな？」と、自問自答しながら日々のケアを進めている。利用者の日向ぼっこシチュエーションで楽しそうな笑顔を目の当たりにし、今でも焼き付いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「いきがいの探求・いきがいの創造」を念頭にカンファレンスやユニット会議で話し合い、自立支援やアットホームな雰囲気の中で楽しんで頂けるように意識し、職員同士で高めあっている。	理念は、事務所と各ユニットの共有フロアに掲示しており、朝礼で毎朝唱和している。入職者は、オリエンテーションで研修をし、早く実践できるように学んでいる。また、各ユニットで毎月会議を行い、反省や来月の目標を立て、具体的なケアの方法を定め理念を遂行しようとしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の一つである「夏祭り」では、地域の方々との会話や協力し合うことにより交流を図っている。また、喫茶への参加を通し地域の方々や入居さんが繋がっているようにしている。	町内会に入り、ゴミ掃除や総会に参加している。認知症カフェのオレンジカフェと喫茶店を開催しているので、毎週、地域に喫茶店を解放して交流を深めている。また、カフェの場は、地域の舞踊やマジックなどのボランティアの披露の場になっていて、より地域の関わりが深まっている。	町内会との関係を深める為にも、介護や認知症の講演をして、今以上のリーダーを目指しては如何でしょうか？	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族からの相談を主に助言を行っている。敬老会などは複数のご家族と職員が集まって話せる良い機会なので情報交換や認知症の理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者や入居ご家族の方に参加してもらい、客観的な視点でのご助言を頂いている。	隔月に開催している。老人会の会長・愛育委員・地域包括支援センター・利用者家族の代表者が参加して、外出支援の現状や、祭りの準備、手作りマスクの作り方など、有効な会議となるよう企画し、地域と交わりを深める話し合いをして、徐々に地域の存在の位置づけが築けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請関係のものや介護報酬の解釈や制度の改定時には連絡し問い合わせをしている。	窓口は、施設長であり、必要に応じて電話などで質疑応答し、運営に役立てているので、情報もいち早くキャッチできている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を設置している。身体拘束についての勉強会を開催し代表者をはじめ、全職員が正しく理解し、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。事業所内で、担当制が資料を作る形式で、年2回の勉強会を行う。ケアの質の向上を図るために、時代に即したケアの方法を事例を交えながら勉強し合っている。欠席者には、資料にコメントを書き、講師がチェックして、周知を図っている。毎回、10人程度参加で盛り上がっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を設置している。勉強会やミーティングを通して知識の習得・共有している。介護していく中で職員がお互いに注意を促すようにしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」の勉強会を行っている。ご家族からの相談は無いが資料を用意し、常時相談に応じられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時、料金の改定時の際に書面にて入居者やご家族に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に生活の様子をお伝えしている。その際に要望やご意見をお聞きしている。要望などがあった際は会議などで検討しケアに取り入れサービスの向上に役立てている。	入居時に、しっかりとアセスメントにて、意向等を把握している。以後は、面会時や状態の変化に応じて、その都度、家族へ連絡している。基本的に「どうすればできるか？」という考えに立ってケアに取り組んでいるので、日々の介護記録等も取りまとめ、出来る限りの対応で導いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議や個別面談などで職員の意見を聞くようにしている。職員から出た意見はすぐに検討し日常業務に生かせるようにしている。	年に1回、施設長が個人面談をして、施設長の考え方や職員の介護への思いを語り合っている。ユニットの管理者が、定期、不定期の感覚で職員の様子を見ながら聞き取りをし、じっくり聴く事と、直ぐの対応との浸透することで、職員の個性やキャリアを活かせる対応を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの希望や能力向上が見られれば役職を与えたり、配置転換を行っている。また管理者が評価する機会を設け、勤務態度等に応じて給与または賞与に反映、支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会や外部研修への参加を促したり、現場での介護指導、要望があれば個々での指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での行事『夏祭り・青空漫步・望年会』などの参加を積極的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してしばらくは様子観察を密に行い、表情や行動の変化をいち早く察知し素早く対応できるようにしている。また、訴えや要望がある時は出来るだけ傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の方よりお聞きするようにしている。面会時や変わったことがあった際に報告や連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の前後にカンファレンスを行い、入居者本人やご家族の要望を取り入れたサービス内容としている。また、日頃から様子観察やコミュニケーションをしっかりと取ることにより必要と思われる支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と一緒に洗濯物量みや食器拭きを行うことにより、一方的な介護にならない様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や夏祭り、誕生日会といった行事に参加していただけよう呼び掛けている。また年3回のグループホーム新聞を発行して担当者に生活の様子を記入してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節や行事に応じて外出を行うようにしている。ご家族にも面会時に可能な限りでよいので外出して頂けるようご協力を呼び掛けている。	家族、近所の友達や知人が面会にしばしば来られている。家族が法事に連れ出すこともある。平屋の広い3ユニットであっても利用者が気軽に行き来し、また、嘗て利用していた近所の事業所の行き来もある。毎月の報告の写真や手紙を出す時に、利用者の手書きの手紙も時々添えている。	学校や官公庁関係や消防や警察など、ちょっと視点を変えて外出がてらに馴染みの場を作って行って欲しい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールで過ごしてもらいレクリエーションや軽作業、行事などに参加してもらっている。入居者同士でも良好な関係が維持できるよう会話の橋渡しなどを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にご家族からの要望があれば相談に乗らせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活の様子観察を行い、会話や行動を把握し、3ヶ月に1回のサービス計画書に反映させている。また、状態お変化を把握するために年1回のケアチェックも行っている。	ゆったりとした時間が流れているからこそ、じっくりと関われる時間が生かされて、普段の会話や表情やしぐさで意向を把握できる体制となっている。意向は、出来るだけその日に叶える様に取り組み納得をしていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後にご本人やご家族からお話を聞いている。日常生活の中での会話などからヒントを得てケアに生かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のカンファレンスにて残存機能の有無や心身の状態に関して話し合っている。また、状態などの情報共有も職員間で行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時などに事前にご家族の意向や要望をお聞きし、月1回のカンファレンスにて計画を立てている。介護計画作成後にご家族に説明と確認を行い修正の有無をお聞きしている。	ケアプランは、3か月毎に見直し、その過程で、毎月モニタリングを行っている。歩きたい意向の車いす生活の利用者に、評価をじっくりと見直しして、歩行器を使って歩ける様になった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録の中に気付いた点や実践した事、その結果を記載している。職員間では日々の申し送りや申し送りノート、介護ノート等で情報の共有を行い介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員側から要望を聞いたり、入居者側から要望があれば可能な限り沿えるようにしている。行事等でその他の事を対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小中学校やボランティア団体、医療施設などを把握している。楽しんで交流ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人のかかりつけ医の確認をとっている。眼科や歯科においても地域内で受診ができるようにしている。	隔週で来る提携医は、24時間に対応して頂けるので、入居時に提携に転医される。歯科は、必要に応じて訪問でき、それ以外の他科は、もともとかかりつけ医を受診するので、家族や職員が状況を見て受診を介助する。訪問で鍼灸師を利用する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回、ユニット会議内にて看護師による勉強会や日頃から相談して看護師と連携をとっている。また、昼夜問わず入居者に異常が見られたら看護師に報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会を行い、本人の状態の把握を行っている。また入退院時に医師や看護師等と情報交換を行い、円滑に進められるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療面の方向性や看取りについての説明を行っている。ご家族と話し合いその結果を医師に報告し、方針を決めている。	ここ一年で4名を看取った。入居時に看取りに関する説明を行うが、入居後、家族の心境に併せた話し合いを、忌憚なく率直に話し合う。家族が泊まり込みで看病する方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを活用している。連絡方法などは全職員周知徹底している。病気などの際はその都度看護師による勉強会に参加し、指導していただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に行われる火災や風水害の避難訓練にて、避難方法や避難経路の確認を行っている。特に夜間帯は職員の数も少ないので重点的に行っている。	年2回、昼夜想定で火災と訓練を行う。今年は、水害訓練とは別に実施した。消防署は、消防計画のやり取りで連携を取っている。備蓄は、母体法人に水を3日分、食料を1日分を用意。町内会も参加している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の羞恥心や自尊心に関する勉強会を開催している。勉強会を通して職員同士で声を掛け合えるようにし、羞恥心などに配慮した介護が行えるよう心掛けている。	利用者との関係性を見て、家族と相談をした上で、その方が機嫌が良くなる馴染んだ呼び方をしている。そして、自尊心に配慮して対応をしている。「ちょっと出かけようか?」「花を見に行きましょう」等と言葉をかけて、気分を良くして、次の行動がスムーズに行えるように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いや要望を聞くようにしている。要望に添えない時は選択肢を用意し選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は共同生活とし、その中でも一人になれる時間と場所(居室等)を設け本人の趣味や嗜好に合ったものを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参した服やご家族が用意してくださった服が基本となっており起床時や入浴時などに選んで頂いている。また、持参された化粧セットでメイクができる時間も設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事で食材をカットしてもらったり、目で調理し、視覚や嗅覚でも楽しんで頂けるようにしている。また、毎食後の食器拭きを手伝って頂いている。	朝食は手作り。昼と夕食は、ケータリングしている。牛肉のしぐれ煮を丼に変更する等、利用者の好みや気分に合わせて対応をしている。利用者とバらずしを作ったり、ハンバーガーやカップ麺など、栄養管理をした上で、出来るだけ好きな時に好きなものを食べて頂く様に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師と連携をとり、摂取状況により食事形態を変更している。水分はお茶やコーヒー、紅茶を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや洗面所まで誘導し口腔ケアを行っている。基本はご本人に行ってもらい状況により一部介助などを行っている。義歯は夜に預かって消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や声掛けを行っている。排泄状況によっても臨機応変に時間をずらすなどして対応している。	日々の排泄記録から排泄パターンを把握している。出来るだけ気分よくトイレに誘導できる様に、言葉がけの仕方を工夫している。リハビリパンツから布パンツに改善できた方もいる。また、パットの枚数を減らしてトイレに行ける頻度を増し、少しでも現状維持と改善が図れる様に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の回数を増やしたりして対応している。必要な入居者には看護師に相談し指示に応じて内服薬を使用する事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが入居者の要望によっては順番や日にちを変えたりしている。	基本は、週2回入浴して頂くが、希望があれば頻度を増やす対応もしている。お湯は入れ替えて清潔を保ち、手浴や足浴を入浴以外の時間でも提供して、リハビリ効果も得ている。嫌がる方には、気分を変えられる言葉をかけながら、気持ち良い入浴に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせている。状態や要望によりベッド臥床にてゆっくりできるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により内服の追加や変更が申し送られ、その都度説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業やレクリエーション、日光浴や散歩などで気分転換をしてもらっている。負担がかからないように、無理がない程度にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季が感じられ楽しんでいただけるよう行事(お花見や紅葉)を企画し実施している。天候が良ければ庭でお茶会を開催したりもしている。	敷地の駐車場で体操を楽しんだり、敷地内の他事業所に遊びに行ったり、畑の芋ほりや見物を楽しんだりしている。お決まりのドライブコースがあるので、紅葉を見に行く。敷地にある自動販売機にお茶やジュースを買いに出かけるのも楽しみの一つ。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失を防ぐため、基本はお預かりしている。ご本人やご家族の要望があれば使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の要望があれば基本事務所の電話を使用してもらっている。ご家族が用意された携帯電話の使用も可能である。ご家族から電話があった場合はおつなぎできるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は毎日掃除をし清潔を保っている。室温なども入居者に聞くなどして調整している。少しでも季節感を感じて頂けるように、応じた壁面を作成したり小物で飾り付けたりしている。	四方にある窓からは、どこからも風光明媚。最上稲荷がすぐそばにあり、電車が行き交う田園が広がっている。平屋の3ユニットと母体法人が広々とした敷地に位置している。地域の祭りや出来事の写真、利用者の作品の掲示も程よく、季節ごとにかかけけるので季節感も感じやすい。廊下も玄関も日当たりが良く、窓の傍で向かい合って、おしゃべりが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファを用意したり、窓際に椅子を用意したりして一人や気の合う者同士で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご家族に相談・協力を仰ぎ、使い慣れた物や思い出の品を持ってきてもらうようにしている。またご家族との写真やお手紙も飾るようにしている。	どの居室の窓も、山や田園が広がり、静かでもっとも落ち着く。家族写真や作品がさりげなく飾られており、個人個人のオリジナリティがある居心地の良い空間になっている。家族が泊まる事もあって、身も心も昔のままの家に住んでいた様な気持ちにさせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の家具の配置は残存機能や安全面を考慮している。ホールなど共同の空間は他者とコミュニケーションが取りやすく安全に生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104980		
法人名	有限会社 かりゆし		
事業所名	グループホーム 高松(Bユニット)		
所在地	岡山市北区高松原古才720-3		
自己評価作成日	令和2年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jigyouCd=3370104980-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和2年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

☐ 健康管理 ☐ リハビリ ☐ レクリエーション ☐ 事故防止
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の永年培ってきた経験から、人の問題が一番大事だという事を痛感しているからこそ、職員の人づくりをテーマとして、利用者に対してのケアを深めようとしている事が素晴らしい。その永年培った事を、若い施設長が、棋士が先読みをして勝負にする如く、冷静に淡々と熱く、今風に取り入れられるものに変化させようと、徐々に新しい施設の完成を目指して行こうとしている。スタッフに自主的な行動をさせた後に、今、この時代に、また、今、この利用者に「本当に大丈夫かな？」と、自問自答しながら日々のケアを進めている。利用者の日向ぼっこシチュエーションで楽しそうな笑顔を目の当たりにし、今でも焼き付いている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生きがいの探求」「生きがいの創造」というグループ理念をもとに入居者の方々が自分らしく過ごしていただけるように職員間での話し合い、情報共有をし、一人一人の関わっている。	理念は、事務所と各ユニットの共有フロアに掲示しており、朝礼で毎朝唱和している。入職者は、オリエンテーションで研修をし、早く実践できるように学んでいる。また、各ユニットで毎月会議を行い、反省や来月の目標を立て、具体的なケアの方法を定め理念を遂行しようとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週に一度のオレンジカフェに参加したり、他ユニットにボランティアの方が来られたら、一緒に参加させていただき、交流を図っている。	町内会に入り、ゴミ掃除や総会に参加している。認知症カフェのオレンジカフェと喫茶店を開催しているので、毎週、地域に喫茶店を解放して交流を深めている。また、カフェの場は、地域の舞踊やマジックなどのボランティアの披露の場になっていて、より地域の関わりが深まっている。	町内会との関係を深める為にも、介護や認知症の講演をして、今以上のリーダーを目指しては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内見学に来られた際やオレンジカフェでの交流の場を通じて、認知症の方への理解、助言等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方やご家族にも参加して頂き、意見や助言を頂いている。	隔月に開催している。老人会の会長・愛育委員・地域包括支援センター・利用者家族の代表者が参加して、外出支援の現状や、祭りの準備、手作りマスクの作り方など、有効な会議となるよう企画し、地域と交わりを深める話し合いをして、徐々に地域の存在の位置づけが築けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請関係や制度の改正時などは連絡し、問い合わせをしている。	窓口は、施設長であり、必要に応じて電話などで質疑応答し、運営に役立てているので、情報もいち早くキャッチできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内では身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束廃止に向けて取り組んで入る。玄関の施錠は夜間のみとし解放的な施設を意識している。	身体拘束はしていない。事業所内で、担当制が資料を作る形式で、年2回の勉強会を行う。ケアの質の向上を図るために、時代に即したケアの方法を事例を交えながら勉強し合っている。欠席者には、資料にコメントを書き、講師がチェックして、周知を図っている。毎回、10人程度参加で盛り上がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で観察している。また、施設内で勉強会を開き話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」の勉強会を行っている。ご家族の方からの相談は無いが、資料を用意しており常時相談に応じられるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退居時、料金改定等の際に書面にて入居者又は家族に対し説明を行い、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置している。また、家族の面会時等でできるだけ意見を聞けるよう促している。	入居時に、しっかりとアセスメントにて、意向等を把握している。以後は、面会時や状態の変化に応じて、その都度、家族へ連絡している。基本的に「どうすればできるか？」という考えに立ってケアに取り組んでいるので、日々の介護記録等も取りまとめて、出来る限りの対応で導いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を開き、意見や提案を聞き、反映できるようにしている。	年に1回、施設長が個人面談をして、施設長の考え方や職員の介護への思いを語り合っている。ユニットの管理者が、定期、不定期の感覚で職員の様子を見ながら聞き取りをし、じっくり聴く事と、直ぐの対応との浸透することで、職員の個性やキャリアを活かせる対応を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員本人からの要望や能力向上があれば役職を与えたり、配置転換を行っている。また管理者が評価する機会を設け、勤務態度や貢献度に応じて給与または賞与を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会への参加を促したり、現場での介護指導、要望があればその都度指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での交流や夏祭り、忘年会、外部への研修等で行えている。そして施設内ユニット間で交流をし協力しあっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊張がほぐれるようにゆっくり話をし、様子観察をしながら関係性を築き、不安や要望に耳を傾け安心して生活をしていただけるように配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設説明を丁寧に行い、話をしていく中で、家族の不安や要望を聞き、安心していただけるように配慮をしている。変化があれば面会時や電話連絡で報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のニーズを聞き取り、それに沿った援助ができるようプランニングしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、洗濯たたみ、作業等を入居者に合わせ、職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会以外でも誕生日会、各イベントに参加をして頂いている。また家族に生活の様子を伝え、コミュニケーションを図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オレンジカフェに参加し馴染みの方との交流や家族の協力のもと外出をされたりし、途切れないように支援している。	家族、近所の友達や知人が面会にしばしば来られている。家族が法事に連れ出すこともある。平屋の広い3ユニットであっても利用者が気軽に行き来し、また、嘗て利用していた近所の事業所の行き来もある。毎月の報告の写真や手紙を出す時に、利用者の手書きの手紙も時々添えている。	学校や官公庁関係や消防や警察など、ちょっと視点を変えて外出がてらに馴染みの場を作って行って欲しい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は集団レクリエーションを行い、交流を図っている。また、居室で過ごせれている方には声掛けを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の要望があれば相談に応じている。また、グループ内での職員間の情報交換も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行い、本人の意向に沿った支援ができるようにしている。また3ヶ月以内でも状況が変わればその都度検討、見直しを行っている。	ゆったりとした時間が流れているからこそ、じっくりと関われる時間が生かされて、普段の会話や表情やしぐさで意向を把握できる体制となっている。意向は、出来るだけその日に叶える様に取り組み納得をしていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にお聞きし、居室内環境等継続した生活を支援できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活を基本にしているが、その中で本人の意向や状態に合わせて個別を重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から状況の変化や様子、その時々課題を見つけ早々に対応できるように、話し合いの場を設けるようにしている。	ケアプランは、3か月毎に見直し、その過程で、毎月モニタリングを行っている。歩きたい意向の車いす生活の利用者に、評価をじっくりと見直しして、歩行器を使って歩ける様になった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事があったことに対し、情報の伝達漏れや記入漏れがないように気をつけケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間での情報交換やグループ内での職員交流等で新たな取り組みを検討し実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ地域でお弁当を購入したり、また散髪屋さんに来てもらっている。グループ内での地域資源の情報交換も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族よりかかりつけ医を確認している。また、歯科や眼科については地域内で受診できるようにしている。	隔週で来る提携医は、24時間に対応して頂けるので、入居時に提携に転医される。歯科は、必要に応じて訪問でき、それ以外の他科は、もともとのかかりつけ医を受診するので、家族や職員が状況を見て受診を介助する。訪問で鍼灸師を利用する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体面や精神面の小さな変化も随時連絡し指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常生活の様子を常に把握し、漏れのない様に情報伝達をし面会時においても情報の提供をいただけるように努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の状態の変化に伴い、早めに本人や家族と話し合いの場を持ち、今後の方向性を納得できる範囲で話し合っている。	ここ一年で4名を看取った。入居時に看取りに関する説明を行うが、入居後、家族の心境に併せた話し合いを、忌憚なく率直に話し合う。家族が泊まり込みで看病する方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段より緊急対応マニュアルに目を通し、勉強会にもデモストレーションをし身に着けるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、避難経路の確認、それについてのマニュアルの確認を行っている。	年2回、昼夜想定で火災と訓練を行う。今年は、水害訓練とは別に実施した。消防署は、消防計画のやり取りで連携を取っている。備蓄は、母体法人に水を3日分、食料を1日分を用意。町内会も参加している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を敬い尊重しながら、その方に合った声掛けを行っている。特に排泄誘導介助時、入浴時はプライバシーを損なわないよう配慮をしている。そして「人権・プライバシー保護」の勉強会を行い周知している。	利用者との関係性を見て、家族と相談をした上で、その方が機嫌が良くなる馴染んだ呼び方をしている。そして、自尊心に配慮して対応をしている。「ちょっと出かけようか?」「花を見に行きましょう」等と言葉をかけて、気分を良くして、次の行動がスムーズに行えるように工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のそれぞれの場面において利用者の思い等を聞くようにしており、思いに添えない時は選択肢を設け選んでもらうこともある。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活を基本としているが、本人の希望や趣味、嗜好合ったものを体調や状況を見ながら促していく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持参されたものや家族が持ってきてくださった服などを着ている。その中で起床時、入浴時等本人に選んでもらえるようにしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の時は要望を聞きながらお弁当を注文しつつも違う雰囲気の中で食事を楽しんで頂いている。食後は個々に合わせて食器拭きを手伝っていただいている。。	朝食は手作り。昼と夕食は、ケータリングしている。牛肉のしぐれ煮を丼に変更する等、利用者の好みや気分に合わせて対応をしている。利用者とバラうしを作ったり、ハンバーガーやカップ麺など、栄養管理をした上で、出来るだけ好きな時に好きなものを食べて頂く様に配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、利用者の状態に合わせ食事形態等を変更している。食事摂取量も記録し把握している。水分はお茶以外にもコーヒー、紅茶等提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ自力で歯磨き・うがい義歯を外す等ができるように促している。出来ない部分も本人が嫌がらない程度に行いケアしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の身体能力、理解力等も配慮した上で支援し、本人の訴えや排泄間隔を見て声掛けし誘導・交換を行っている。	日々の排泄記録から排泄パターンを把握している。出来るだけ気分よくトイレに誘導できる様に、言葉がけの仕方を工夫している。リハビリパンツから布パンツに改善できた方もいる。また、パットの枚数を減らしてトイレに行ける頻度を増し、少しでも現状維持と改善が図れる様に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と下剤の導入で個々に応じた排便管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、利用者の状態、希望に合わせて入浴日の変更や順番を決めている。	基本は、週2回入浴して頂くが、希望があれば頻度を増やす対応もしている。お湯は入れ替えて清潔を保ち、手浴や足浴を入浴以外の時間でも提供して、リハビリ効果も得ている。嫌がる方には、気分を変えられる言葉をかけながら、気持ち良い入浴に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに添って支援している。その日の本人の体調や様子に配慮しながら休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬」についての勉強会を開催したり、その都度細かい説明を受け、色分けし、確認を十分に行うことで誤薬防止にも注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中の作業やレクリエーション等支援し、入居者に充実した生活を送れるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き、体調や状態に合わせ、家族に協力してもらい外出や外食ができるように促している。	敷地の駐車場で体操を楽しんだり、敷地内の他事業所に遊びに行ったり、畑の芋ほりや見物を楽しんだりしている。お決まりのドライブコースがあるので、紅葉を見に行く。敷地にある自動販売機にお茶やジュースを買いに出かけるのも楽しみの一つ。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が手元に持たれている方はいないが、職員が預かり管理しているお金あり、本人の希望に合わせ使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば施設から電話ができるようにしている。また家族より電話があれば直接話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は毎日掃除をし清潔を保っている。室温や湿度にも気を配っている。毎月季節感を感じて頂けるように壁面や写真などを飾り付け心地よい空間を作っている。	四方にある窓からは、どこからも風光明媚。最上稲荷がすぐそばにあり、電車が行き交う田園が広がっている。平屋の3ユニットと母体法人が広々とした敷地に位置している。地域の祭りや出来事の写真、利用者の作品の掲示も程よく、季節ごとにかかけけるので季節感も感じやすい。廊下も玄関も日当たりが良く、窓の傍で向かい合って、おしゃべりが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の様子や希望に沿って居室で一人で過ごして頂いたり、ホールでゆっくり過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物(ダンス、テレビ、小物)を持ち込んでもらい馴染みの空間を出来るだけ作れるように援助している。	どの居室の窓も、山や田園が広がり、静かでとても落ち着く。家族写真や作品がさりげなく飾られており、個人個人のオリジナリティがある居心地の良い空間になっている。家族が泊まる事もあって、身も心も昔のままの家に住んでいた様な気持ちにさせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の居室の入り口には名前を掲げたり、のれんをかけて分かりやすいようにしている。また共用部分(トイレ)には扉に張り紙をして分かりやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104980		
法人名	有限会社 かりゆし		
事業所名	グループホーム 高松(Cユニット)		
所在地	岡山市北区高松原古才720-3		
自己評価作成日	令和2年3月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jigyousoCd=3370104980-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和2年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

☐ 健康管理 ☐ リハビリ ☐ レクリエーション ☐ 事故防止
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の永年培ってきた経験から、人の問題が一番大事だという事を痛感しているからこそ、職員の人づくりをテーマとして、利用者に対してのケアを深めようとしている事が素晴らしい。その永年培った事を、若い施設長が、棋士が先読みをして勝負にする如く、冷静に淡々と熱く、今風に取り入れられるものに変化させようと、徐々に新しい施設の完成を目指して行こうとしている。スタッフに自主的な行動をさせた後に、今、この時代に、また、今、この利用者に「本当に大丈夫かな？」と、自問自答しながら日々のケアを進めている。利用者の日向ぼっこシチュエーションで楽しそうな笑顔を目の当たりにし、今でも焼き付いている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの時間に職員が理念を読む事を徹底している。また、夏祭りや清掃活動等を通して地域との交流を持っている。	理念は、事務所と各ユニットの共有フロアに掲示しており、朝礼で毎朝唱和している。入職者は、オリエンテーションで研修をし、早く実践できるように学んでいる。また、各ユニットで毎月会議を行い、反省や来月の目標を立て、具体的なケアの方法を定め理念を遂行しようとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を目的とした年1回の青空散歩や夏祭りの実施、定期的な地域の清掃活動への参加・認知症家族会への参加、敬老会への参加など地域行事への参加を行っている。	町内会に入り、ゴミ掃除や総会に参加している。認知症カフェのオレンジカフェと喫茶店を開催しているので、毎週、地域に喫茶店を解放して交流を深めている。また、カフェの場合は、地域の舞踊やマジックなどのボランティアの披露の場になっていて、より地域の関わりが深まっている。	町内会との関係を深める為にも、介護や認知症の講演をして、今以上のリーダーを目指しては如何でしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族会への参加や入居相談での対応にて地域の方々に知識や経験に基づいたアドバイスをを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行っており、老人クラブの会長に参加して頂いている。施設を客観的に見てもらい意見を頂いている。	隔月に開催している。老人会の会長・愛育委員・地域包括支援センター・利用者家族の代表者が参加して、外出支援の現状や、祭りの準備、手作りマスクの作り方など、有効な会議となるよう企画し、地域と交わりを深める話し合いをして、徐々に地域の存在の位置づけが築けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請関係のものや介護報酬の解釈についての連絡や問い合わせはしている。	窓口は、施設長であり、必要に応じて電話などで質疑応答し、運営に役立っているため、情報もいち早くキャッチできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員の設置をしており定期的に身体拘束について話し合いをするともに、勉強会等で身体拘束について職員間で周知し身体拘束をしないケアについて話あっている。	身体拘束はしていない。事業所内で、担当制が資料を作る形式で、年2回の勉強会を行う。ケアの質の向上を図るために、時代に即したケアの方法を事例を交えながら勉強し合っている。欠席者には、資料にコメントを書き、講師がチェックして、周知を図っている。毎回、10人程度参加で盛り上がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で虐待の防止の理解を深め日常での言葉使いにおいて気がついた点は職員同士でアドバイスし合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回『成年後見制度』の勉強会を開催している。ご家族の相談は今の所無いが、資料を事務所に用意しつつでも相談に乗れるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時・料金の改定時に書面にて入居者や御家族に説明し、同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に日常生活の様子などをお伝えしている。その際要望や意見などをお聞きし、会議にて話し合っている。今後のケアの方向性やサービス向上に役立てている。	入居時に、しっかりとアセスメントにて、意向等を把握している。以後は、面会時や状態の変化に応じて、その都度、家族へ連絡している。基本的に「どうすればできるか？」という考えに立ってケアに取り組んでいるので、日々の介護記録等も取りまとめ、出来る限りの対応で導いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時のカンファレンスや月に1度あるユニット会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	年に1回、施設長が個人面談をして、施設長の考え方や職員の介護への思いを語り合っている。ユニットの管理者が、定期、不定期の感覚で職員の様子を見ながら聞き取りをし、じっくり聴く事と、直ぐの対応との浸透することで、職員の個性やキャリアを活かせる対応を取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員本人から能力向上のための希望等あれば役職をつけたり、配置転換などを行うようにしている。管理者が評価する機会や場を設け、能力や勤務状況等考慮し給与や賞与を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の施設内勉強会への参加を促したり現場での介護指導を行っている。個々の要望等があればその都度対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の行事(夏祭り・忘年会・旅行)などの参加を積極的に行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集をもとに積極的にコミュニケーションを図ったり、関わりを持つことで安心した生活を送れるような関係構築を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと時間をかけ、家族が話しやすい環境を提供し、可能な範囲でのサービスを行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞きなるべくそれに沿った支援を行えるようにしている。また、本人の混乱を招かないような落ち着ける環境を作れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場面において本人の希望に沿ったケアをする事を第一に考えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や夏祭り・誕生日会に参加して一緒に楽しんでいたけよう呼びかけている。また、面会にも来ていただけるよう声掛けをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族協力のもと外出や自宅への外泊等を行っている。	家族、近所の友達や知人が面会にしばしば来られている。家族が法事に連れ出すこともある。平屋の広い3ユニットであっても利用者が気軽に行き来し、また、嘗て利用していた近所の事業所の行き来もある。毎月の報告の写真や手紙を出す時に、利用者の手書きの手紙も時々添えている。	学校や官公庁関係や消防や警察など、ちょっと視点を変えて外出がてらに馴染みの場を作って行って欲しい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事を通じて入居者同士が関われるサービスを提供している。入居者同士の関係作りが難しい時には職員が間に入り関係作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の要望があれば他のサービスの利用などの相談に応じている。またグループ内での情報交換も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを聞くようにし、また高齢の方へは身体的にも無理をさせない配慮も行っている。	ゆったりとした時間が流れているからこそ、じっくりと関われる時間が生かされて、普段の会話や表情やしぐさで意向を把握できる体制となっている。意向は、出来るだけその日に叶える様に取り組み納得をしていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関係者の方々より細かい情報をいただけるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の細かな観察により状態を把握し職員間での情報共有にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から状況の変化や様子、その時々課題を見つけ早々に対応できるように話し合いの場を設けるようにしている。	ケアプランは、3か月毎に見直し、その過程で、毎月モニタリングを行っている。歩きたい意向の車いす生活の利用者に、評価をじっくりと見直しして、歩行器を使って歩ける様になった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については記入漏れのないように記録している。また、気づきなどは申し送りや介護ノートを使用し職員間での情報共有を行いながら計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット間での情報交換や、またグループ内での職員交流等で新たな取り組み等を検討し実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じ地域で弁当をとったり、また散髪屋さんに来てもらっている。グループ内での地域資源の情報交換も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族よりかかりつけ医を確認している。また、歯科や眼科についても地域内で受診できるようにしている。	隔週で来る提携医は、24時間に対応して頂けるので、入居時に提携に転医される。歯科は、必要に応じて訪問でき、それ以外の他科は、もともとのかかりつけ医を受診するので、家族や職員が状況を見て受診を介助する。訪問で鍼灸師を利用する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各利用者における身体面、精神面の変化を小さいことでも随時連絡し指示をもらうようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日常生活の様子を常に把握し漏れのないように情報伝達をし面会時においても情報の提供をいただけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の状態の変化に伴い早めに本人や家族と話し合いの場を持ち、今後の方向性を納得できる範囲で話あっている。	ここ一年で4名を看取った。入居時に看取りに関する説明を行うが、入居後、家族の心境に併せた話し合いを、忌憚なく率直に話し合う。家族が泊まり込みで看病する方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段より緊急時対応マニュアルに目を通し勉強会においてもデモンストレーションし身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や災害時の避難方法などの訓練を勉強会で行っている。また、ユニット内に避難経路やマニュアルを置いてあり、いつでも確認できるようにしている。	年2回、昼夜想定で火災と訓練を行う。今年は、水害訓練とは別に実施した。消防署は、消防計画のやり取りで連携を取っている。備蓄は、母体法人に水を3日分、食料を1日分を用意。町内会も参加している。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者を敬いながらもあまり堅苦しくならないような一人ひとりに合った声かけ、特に排泄誘導時、入浴時への配慮を怠らないようにしている。	利用者との関係性を見て、家族と相談をした上で、その方が機嫌が良くなる馴染んだ呼び方をしている。そして、自尊心に配慮して対応をしている。「ちょっと出かけようか?」「花を見に行きましょう」等と言葉をかけて、気分を良くして、次の行動がスムーズに行えるように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のそれぞれの場面において本人の思い等を聞くようにしている。無理な時は選択的に選んでもらう時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活が基本となっているが本人の部屋でゆっくりテレビをみて過ごしたり、趣味活動ができるように支援したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が選んで購入している服が基本となっているが入浴ごとには本人に選んでもらうように促し声かけしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見た目でも楽しめるよう盛り付けには気を配っている。また、食器拭きをしてもらったりしている。	朝食は手作り。昼と夕食は、ケータリングしている。牛肉のしぐれ煮を丼に変更する等、利用者の好みや気分に合わせて対応をしている。利用者とバラ粥を作ったり、ハンバーガーやカップ麺など、栄養管理をした上で、出来るだけ好きな時に好きなものを食べて頂く様に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事の提供が行えるように努めている 好みや摂取量を把握し状態に応じた提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回口腔ケアを行っている。なるべく本人にしていえるように促し、できないところは介助させてもらったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら一人ひとりの排泄間隔を把握しさりげなく声掛け誘導している。	日々の排泄記録から排泄パターンを把握している。出来るだけ気分よくトイレに誘導できる様に、言葉がけの仕方を工夫している。リハビリパンツから布パンツに改善できた方もいる。また、パットの枚数を減らしてトイレに行ける頻度を増し、少しでも現状維持と改善が図れる様に工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と下剤の導入で個々に応じた排泄管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務上、入浴日は予め決めているが状況に応じ入浴日を変更し入浴を楽しめるように支援している。また、歌を歌ったり、コミュニケーションをとりながら行うことで楽しめる時間が取れるようにしている。	基本は、週2回入浴して頂くが、希望があれば頻度を増やす対応もしている。お湯は入れ替えて清潔を保ち、手浴や足浴を入浴以外の時間でも提供して、リハビリ効果も得ている。嫌がる方には、気分を変えられる言葉をかけながら、気持ち良い入浴に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせ休む時間を設けている。また、眠気など本人の状態に応じ午後からも休んでもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の追加や変更があった場合は看護師から内容や効能などの説明を受けている。病状の変化などは申し送りや申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し意識の統一を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会等ではご家族に参加の声掛けをしたり、四季を楽しめるように外出(小集団や個別の時もあるが)の企画を立て、実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族のご協力にて外出や外泊を行っている。また、お花見などの行事にて外出を行っている。庭への散歩や日光浴等を行う時間も確保するようにしている。	敷地の駐車場で体操を楽しんだり、敷地内の他事業所に遊びに行ったり、畑の芋ほりや見物を楽しんだりしている。お決まりのドライブコースがあるので、紅葉を見に行く。敷地にある自動販売機にお茶やジュースを買いに出かけるのも楽しみの一つ。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失を防ぐ為、基本的には預かりとしている。本人が持っている事で安心する場合はある一定の額を持っていただいている場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば事務所の電話を使用してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招く恐れがある為、大幅にレイアウトを変更する事はないが壁面飾りや写真等を飾り季節感を出している。	四方にある窓からは、どこからも風光明媚。最上稲荷がすぐそばにあり、電車が行き交う田園が広がっている。平屋の3ユニットと母体法人が広々とした敷地に位置している。地域の祭りや出来事の写真、利用者の作品の掲示も程よく、季節ごとにかけてるので季節感も感じやすい。廊下も玄関も日当たりが良く、窓の傍で向かい合って、おしゃべりが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ定位置で過ごす事が多いが、作業時やレク時は、トラブル防止もかねて席の配置をしたり一人で読書が出来るテーブルかソファ等でゆっくり過ごせるようにしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた馴染みのものを持参され使用している方もおられる。ADLの低下や状態によっては家具等の配置替えをし快適に生活出来るように工夫している。	どの居室の窓も、山や田園が広がり、静かでとっても落ち着く。家族写真や作品がさりげなく飾られており、個人個人のオリジナリティがある居心地の良い空間になっている。家族が泊まる事もあって、身も心も昔のままの家に住んでいた様な気持ちにさせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすの方が使える洗面所、トイレの手すり、廊下の手すり、フットライト、トイレ(便所)への案内の貼紙等で使いやすく、わかりやすく工夫している。		